

北海道開発の歴史は、明治2年、政府による「土地墾闢、人民蕃殖、北門之鎖鑰」を使命とする開拓使の設置によりスタートしました。特に、国は昭和25年北海道開発法を制定し、北海道総合開発計画を樹立、同計画に基づく事業を実施してきました。同年、北海道開発の企画、立案及び推進を担うため北海道開発庁を、翌年には現地において直轄公共事業を一元的に実施するため北海道開発局を設置しました。平成13年の中央省庁再編では、北海道開発庁の任務及び機能は国土交通省に引き継がれました。このように140有余年にわたり、北海道開発は一貫して国の政策として進められてきました。

## わが国の発展に貢献

昭和26年北海道開発法に基づき第1期北海道総合開発計画を策定以降、平成20年策定の第7期計画（計画期間は概ね平成29年度まで）にいたるまで、積雪・寒冷といった厳しい自然条件を克服し、北海道の持つ優れた資源・特性を存分に生かし、戦後の海外からの引揚者の収容、食糧難の打開、石炭によるエネルギー供給、多極分散型国土の形成など、その時々々の国の課題を解決し、わが国全体の発展に貢献してきました。また、地域や民間の自発的な努力とも相まって、人口、経済とも優に北欧の一国にも匹敵する地域社会を形成するにいたりました。

国土交通省には、みなさんの生活の基盤を支えるため欠かせない仕事が多く存在します。

それらが現在に至るまでの背景には、先人の知恵や技術を受け継いできた長い歴史があります。

今回は、明治以来140有余年、日本の発展に貢献している「北海道開発」の歴史を紹介します。

北海道局 総務課・参事官室

## 総合開発の推進

国土交通省（旧北海道開発庁）では、関係省などとの間で総合調整を行い、各種施策を総合的に推進することにより北海道開発を進めてきました。

例えば、昭和31年度に着手された篠津泥炭地開発事業をはじめ現在にいたるまで、道内各地で湿地や泥炭地などの農業に不向きな土地を河川整備や農業基盤整備により農地に変え、そこから生み出された農産物を道外・国外へ移出するため道路、港湾などの交通基盤整備を総合的に実施しました。それにより、全国の農地面積の約4分の1、農業産出額の約12%を占めるなど、日本の食を支える役割を果たす地域になりました。また、北海道の食は質の面からも高く評価され、北海道根釧地区の牛乳が日本で生産されるハーゲンダッツアイスクリームの原料になるなど、北海道産の農水産物は多くの製品に使われています。

## 世界で評価

近年、北海道開発は、中央アジア諸国や南アフリカ共和国などで高く評価されています。特に、中国政府は、西部大開発（中国内陸部の開発）の参考にするため、行政実務者の育成を目的とする研修実施を日本政府に要望。平成14年度から北海道局・北海道開発局では、西部大開発に携わる中国の行政官を対象に、北海道開発システムや開

発の成果に関する研修を実施しています。西部大開発では、北海道開発法などに基づく北海道開発システムを取り入れて開発を進めています。

## 明日を拓く北海道開発

北海道は、水や森林などの豊かな資源、北国らしい自然環境、冷涼な気候、厳しい自然特性に起因した風力、雪氷冷熱、バイオマス資源をはじめとした豊富なエネルギー資源など、アジアの中でも特徴的な資源・特性があります。今、環境負荷の少ないエネルギー源である風力、雪氷エネルギー、バイオマス資源などに注目が集まっており、地球温暖化対策、エネルギー問題を解決するため先導的な役割を果たすことが期待されます。

また、広大な農地、豊かな漁場、良質な水資源、冷涼な気候は、安全・安心で良質な一次産品を生み出します。

一方、北海道は、千数百年前のオホーツク文化など特徴的な文化が営まれていた時期があります。また、古くからアイヌの人々が独自の文化と歴史を持って生活してきており、道内各地にはアイヌ語をもとにした地名が多く存在するなど、文化的にも特徴のある地域となっています。

これまで実施してきた農業農村基盤などの総合的な整備による景観や、美しく豊かな自然環境や冷涼な気候は、国内のみならず東アジア諸国などからも人を惹き付ける価値を持ちます。





石狩平野(篠津地域)の泥炭地開発(排水路掘削)の様子(昭和30年代)

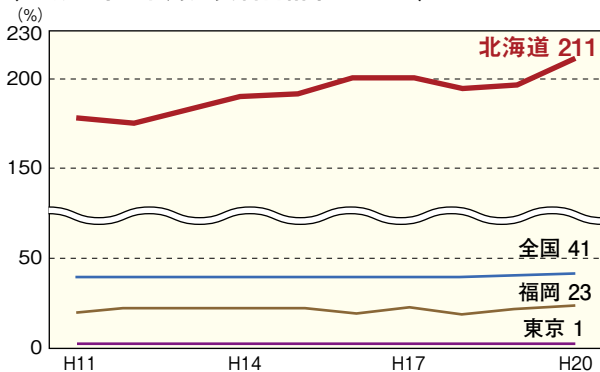


大規模穀倉地帯となった石狩平野の現在の姿

# 北海道開発の歴史

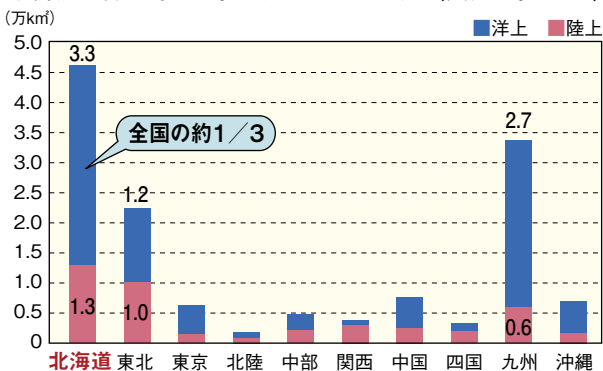
## ～日本の発展を支える北海道の歩み～

都道府県別食料自給率(カロリーベース)の推移  
(平成20年の北海道食料自給率は211%)



出典:農林水産省

北海道の再生可能エネルギーのポテンシャル(風力エネルギー)



出典:一般社団法人 日本風力発電協会  
 ※陸上は風速6.0m/s以上、標高1,000m以下、  
 海上は風速7.0m/s以上、湾岸距離30km以内の面積の合計

今後、わが国は人口減少・少子高齢化を迎えるなかで、世界的な食料消費量の増加、エネルギー需要の急増、地球温暖化問題の深刻化に対応しつつ成長を遂げていかなければなりません。そのためには、北海道の持つ優れた資源・特性を活かして国全体の発展に寄与していくことが必要であり、引き続き、北海道開発を進めていきます。

ぜひ、北海道に実際に足を運んでいただき、魅力にあふれる北海道を体感してください。



(社)北海道土地改良設計技術協会主催「第19回北の農村フォトコンテスト 金賞受賞作品」